

キャンパスマスター プラン2014

豊田工業高等専門学校

巻頭言

「キャンパスマスタープラン 2014」をまとめるにあたって

豊田工業高等専門学校は平成 25 年に創立 50 周年を迎えた。昭和 38 年創立当時は、校舎もなく、当時のトヨタ自動車工業株式会社本社工場敷地内にあった施設を仮校舎とし、旧豊田市役所を仮学生寮とした。その後、昭和 39 年 4 月には豊田市栄生町において新校舎第 1 期工事が完成し、新校舎、新学生寮に移転した。当初の新校舎は、現在の管理棟とそれに T 字型に繋がる教室棟から成り、1 階は職員玄関の隣に事務室、学生玄関の横に保健衛生室、機械や化学の実験室など、2 階、3 階は校長室、事務部長室、各学科教室、LL 教室、それに教員室、会議室等が配置された。

その後、第 4 期工事にいたるまでに幾つかの校舎、学生寮、陸上競技場、野球場、体育館、プールなどの工事が一通り完成し、昭和 41 年に校舎落成式が行われた。さらにその後、土木工学科棟（現：環境都市工学科棟）、図書館、電子計算機室・豊田記念会館、情報工学科棟、専攻科棟、地域共同研究センターなど多くの建物や施設が建設され、今日に至っている。

これらの施設の建設は、何期にも亘る工事計画によってなされたものであるが、創設当初から 50 年を経た今、管理棟を残して、主立った建物の改修がほぼ完成し、各部屋の内装は見違えるように綺麗になった。また現在、機械工学科が入っている講義棟には中央階段が新しく設置されるなど建物としての機能改善も図られている。

これらの経過を踏まえて、今後の本校の施設環境整備については、色々な観点からの検討が必要である。まず、教育の観点からは、次のような状況への配慮が必要と考えられる。すなわち、本校に限らず、産業界からの高専への期待は、創設当初に比べて、格段に厳しくなっており、高専教育の特徴でもあった、実践的・創造的技術者教育に加えて、世界で通用するコミュニケーション能力・技術力、そしてリーダーシップなど、大学卒業生は言うまでもなく、大学院修了生にも負けず劣らない能力を有した人材の育成が望まれている。また、現在は建築学科、環境都市工学科、情報工学科を中心として女子学生が在籍しているが、今後は更に広い技術分野で女性の活躍が期待されている。そして、本科 5 年間の教育に加えて、さらに進んだ研究能力を身につけるための教育を行っている専攻科については、更なる拡充に向けての検討が今後ますます重要になってくるものと思われる。

研究面においては、本校と民間企業との産学連携は今後もなお一層、進められるものと思われ、これらの連携を推進するとともに、そのより進んだ科学技術の成果を学生の教育に反映させ、かれらの実践的な問題解決能力を育成するとともに、これら成果を社会に還元する事が望まれる。

一方、多くの寮生を抱える本校にとって、学生寮の近くにあつて万が一の事態にも対応が可能な職員宿舎の存在は重要であるが、国家公務員宿舎に対する政府の方針や、建設以来 50 年近く改修が為されていない木造宿舎の対応策などを考慮し、存続の可否の決断が迫られている。さらに、これからの 50 年は、従来の産学連携は勿論、他の高専や大学等との交流、地域社会との交流、外国人研究者の招聘、外国人留学生の増加など、様々な意味で、いろいろな層との交流を進めて行く事も必要である。

上に述べたような様々な高専を取り巻く今後の社会情勢の変化に対応する為、施設面での対応が必要であり、30 年後の姿を想像しながら、今後の施設整備の核となる「キャンパスマスタープラン 2014」を策定した。

豊田工業高等専門学校
校長

高井 吉明





目次

0 1 . 豊田高専の概要	・ ・ ・ 3
0 2 . 教育の目的・目標	・ ・ ・ 6
0 3 . 第 3 期中期計画	・ ・ ・ 7
0 4 . 基本方針	・ ・ ・ 9
0 5 . 整備・活用方針	・ ・ ・ 10
0 6 . 5 ヶ年計画表	・ ・ ・ 11
0 7 . 将来計画建物	・ ・ ・ 12
0 8 . 配置図	
配置図（キャンパスの現状把握と課題の抽出）	・ ・ ・ 1
配置図（キャンパスの現状把握とゾーニング）	・ ・ ・ 2
配置図（キャンパスの現状把握と動線）	・ ・ ・ 3
配置図（将来計画）案	・ ・ ・ 4
詳細計画－1	・ ・ ・ 5
詳細計画－2	・ ・ ・ 6



01. 豊田高専の概要

◆ 国立高等専門学校機構の概要

高等専門学校は、昭和 30 年代におけるわが国産業の目覚ましい進展に伴い、有能な工業技術者の育成が緊急に要請されたのに応え、「学校教育法の一部を改正する法律（昭和 36 年法律第 144 号）」が公布施行され、昭和 37 年度から新しい構想の高等教育機関として工業に関する学科を設置する高等専門学校を制度化したことから始まった。高等専門学校の特色は、中学校を卒業した若い年齢の青少年を受け入れ、その後 5 年間にわたる一貫したカリキュラムにより一般教育及び専門教育を行うところにある。特に実践的な技術の学習を重要視し、理論を實際面に生かす能力をもった技術者を育成することを目的としている。

昭和 37 年度以降、文部科学省（当時は文部省）により、順次各地に国立高等専門学校の設置が進められ、昭和 42 年度には学校教育法の改正により、商船に関する学科の設置が制度化され、現在全国に 51 高専（55 キャンパス）が設置されている。

その後、平成 15 年 10 月 1 日の独立行政法人国立高等専門学校機構法の施行に伴い、国立高等専門学校機構が 51 高専（当時は 55 高専）の全てを一元管理することとなった。

◆ 豊田工業高等専門学校の概要

豊田工業高等専門学校は、昭和 38 年 4 月に機械工学科、電気工学科及び建築学科の 3 学科を専門学科とする国立の 5 年制高等教育機関として設置された。昭和 43 年 4 月に土木工学科が、昭和 62 年 4 月に情報工学科が増設され 5 つの専門学科を持つ学校として整備・拡充された。さらに、社会の進捗や変革に見合った教育課程の改革を行うために、平成 5 年 4 月に土木工学科が環境都市工学科に、平成 11 年 4 月に電気工学科が電気・電子システム工学科に改組された。

また、平成 6 年 4 月には学士の学位取得が可能な修業年限 2 年の専攻科（電子機械工学専攻、建設工学専攻、情報科学専攻）が設置された。

その後、法改正により平成 15 年 10 月 1 日より独立行政法人国立高等専門学校機構の設置する学校として新しくスタートした。



◆ 豊田高専キャンパス（航空写真）

〈平成 25 年 5 月 1 日現在〉

・敷地面積	・・・ 122,860 m ²	・学生数（定員）	・・・ 1,040 人
・建物延べ床面積	・・・ 39,043 m ²	・教職員	・・・ 129 人
・容積率	・・・ 31.8%	・学生寮収容人員	・・・ 613 人





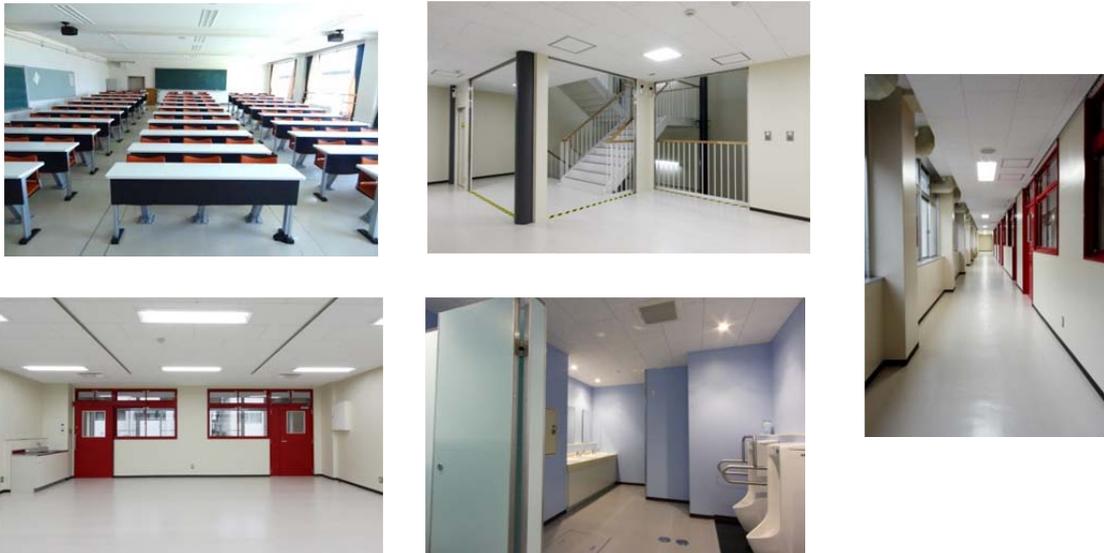
◆ 将来構想に向けた施設整備（平成 24・25 年度整備）

1. 環境に配慮した老朽設備等の再生整備
2. 学生の視点に立ったキャンパス・アメニティの向上



☆学生寄宿舍整備（入寮生増員及び留学生受入れ環境改善 平成 24 年度）

3. 安全・安心な教育研究施設の確保
4. 施設マネジメントによる施設の有効活用



☆校舎改修整備（老朽化した施設機能の環境改善 平成 25 年度）

- ・既存施設の多くが、経年劣化のほか機能的な観点から新たなニーズに対応できず施設機能の陳腐化が進行している。
- ・豊田高専に求められている多様な実践的・創造的技術者の養成等のための基盤施設として必要な機能を確保し続けるためには、既存施設の機能更新・高度化を含む老朽施設の再生整備を中心とした計画的な施設整備が必要です。



02. 教育の目的・目標

創立の精神

真理を探究し開拓の精神をもって日本工業界に寄与し進んで人類の福祉に貢献する。

本校の目的

- 1 学則第1条 本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- 2 本校は、前項の目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

教育目標

本校では、次のような教育目標を設定し、教職員と学生による不断の研鑽と緊密な連携により、これに向かって鋭意努力している。

1. ものづくり能力

社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成

2. 基礎学力

実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立

3. 問題解決能力

問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成

4. コミュニケーション能力

科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力、および国際的に通用するコミュニケーション能力の修得

5. 技術者倫理

世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成



03. 第3期中期計画（高専機構の抜粋）

1. 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- ② 中学生が国立高等専門学校で学習内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。

(2) 教育課程の編成等

- ① 51校の国立高等専門学校の配置の在り方の見直し及び学科再編、専攻科の充実等を行う。またその際、個々の高等専門学校の地域の特性を踏まえ、教育研究の個性化、活性化、高度化がより一層進展するよう配慮する。
- ④ 公私立高等専門学校と協力して、スポーツなどの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストを実施する。

(3) 優れた教員の確保

- ④ 女性教員の比率向上を図るため、必要な制度や支援策について引き続き検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ⑨ インターネットなどを活用したICT活用教育の取組を充実させる。

(5) 学生支援・生活支援等

- ② 寄宿舎などの学生支援施設の計画的な整備を図る。

(6) 教育環境の整備・活用

- ① 施設マネジメントの充実を図り、産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修をはじめ、耐震性の確保、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の整備を計画的に推進する。特に、施設の耐震化率の向上に積極的に取り組む。

2. 研究や社会連携に関する事項

- ② 地域共同テクノセンター等を活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進するとともに、これらの成果を公表する。

3. 国際交流等に関する事項

- ② 留学生交流促進センターの機能を活用して、留学生交流の拡大に向けた環境整備及びプログラムの充実や海外の教育機関との相互交流並びに優れたグローバルエンジニアを養成するための取組等を積極的に実施する。

4. 管理運営に関する事項

- ⑨ 業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を適切に推進するため、政府の方針を踏まえ、情報システム環境を整備する。



◆ 豊田高専の将来構想の進捗と課題

I. 第3期中期計画の期間内における豊田高専の計画

- 1) 優秀な入学生の確保（積極的な広報活動、入試倍率2倍の維持、優秀な女子学生の確保）
- 2) 教育課程の編成等（授業カリキュラムの見直し、専攻科の充実）
- 3) 優れた教員の確保（公募制の導入、民間企業等の経験者や女性の採用）
- 4) 教育の質の向上・改善（授業評価アンケートの活用、自己点検・評価、JABEE）
- 5) 学生支援・生活支援等（部活動やコンテスト等の支援、学生寮施設、福利厚生施設の整備）
- 6) 研究や社会連携（地域の企業や学校間との共同研究、積極的な地域貢献活動）
- 7) 国際交流の推進（学生の海外留学の推進、留学生の受入拡大）

II. 課題として認識している事項

- 1) 優秀な入学者の継続的確保と卒業生の質の保証
- 2) 就職支援体制の強化
- 3) 学生寮施設や福利厚生施設、合宿研修所、部室の整備
- 4) 科研費採択件数の増加と大型外部資金の獲得
- 5) “グローバル人材を育成し地域に貢献する豊田高専”のキャンパス整備



04. 基本方針

グローバルな人材を育成し 地域に貢献する豊田高専

豊田高専の将来ビジョンを具現化するために、「キャンパスの現状と課題」を踏まえ、長期的視点に立った施設整備の方針を次のとおり掲げる。

Global グローバルな人材を育成する豊田高専

- ・ 国際的に活躍できる技術者や実践的技術者の養成を目指した学習環境が整ったキャンパス

Charm 学生にとって魅力のある豊田高専

- ・ 学生が移動しやすく居心地のよいキャンパス
- ・ 安心して快適に過ごせる学生寮や周辺施設

Creative 創造力を支援する豊田高専

- ・ 国内外のコンテストや競技会等に挑戦する学生の創造力を支援する施設環境

Contribute 地域貢献の場としての豊田高専

- ・ 地元産業界との共同研究開発が推進できる施設
- ・ 地域の情報拠点となる図書館メディアセンター

Environment 地球環境問題に取り組む豊田高専

- ・ 空調エネルギー負荷を抑制する建物への改修や新設
- ・ 太陽光や井水等の積極的な導入



05. 整備・活用方針

◆ 整備方針

1) 基本方針に基づく整備の方向

中長期的な整備需要の把握を行うとともに、段階的な整備について検討する。

2) キャンパスの特色と魅力の向上

キャンパスのアイデンティティの確立を図るとともに、キャンパス全体の調和の取れた発展を考慮する。

3) 国の整備計画との関連性

国の政策との関連性等を踏まえた整備の方向性を検討する。

4) 既存施設の安全性や機能性の確保

既存施設の安全性や機能性の確保・向上に係る考え方や実施方策を検討する。

◆ 活用方針

1) 施設の有効活用の方向

戦略を踏まえ、スペースの再配分を図り、利用可能なスペースを捻出する。

2) 土地の有効活用の方向

学校全体の財産として必要な用途に充当するなど土地を有効活用する。また、学内外の共同利用を促進する。



06. 5ヶ年計画表

年次計画表								
番号	事業名	整備理由	5ヶ年計画					備考
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度以降	
			面積(m ²)					
1-1	校舎(一般管理棟)	改修	(1,390)					(001)校舎(一般管理棟)・S39・R3 老朽化環境改善による内装改修
1-2	ものづくり工房棟	改築増築		560				(022)流体・熱工学実験棟・S53・S1 教育研究支援の充実整備
1-3	第1体育館	改修			(1,660)			(031)第1体育館・S41・r1・S55・S1 老朽化改善による内外装改修
1-4	福利厚生会館	改修				(790)		(045)福利厚生会館・S56・R2 老朽化環境改善による内外装改修
1-5	図書館メディアセンター	新築					1,440	図書・情報教育改善による移転新築
1-6	とよた イノベーションセンター	改修					(1,330)	(006)図書館・S47・R2 産学官連携による拠点拡充整備
2-1	浴室棟	新築					280	学生寮施設の充実改善による移転新築
2-2	学寮棟	新築					1,030	グローバル化に向けた学寮施設の充実整備
2-3	学生寄宿舎(栄志寮)	改修					(1,310)	(061)栄志寮・S39・50・R3 老朽化環境改善による内外装改修
2-4	学生寄宿舎(高志寮)	改修					(1,570)	(062)高志寮・S42・43・R3 老朽化環境改善による内外装改修
2-5	学生寄宿舎(友志寮)改修	改修					(940)	(063)友志寮・S40・43・R3 老朽化環境改善による内外装改修
2-6	学生寄宿舎(明志寮)	改修					(940)	(064)明志寮・S41・43・R3 老朽化環境改善による内外装改修
2-7	学生寄宿舎(立志寮)	改修					(1,590)	(065)立志寮・S44・R4 老朽化環境改善による内外装改修
3-1	基幹整備(給水設備)	新設						構内老朽化による給水設備基幹整備
3-2	基幹整備(排水設備)	更新						構内老朽化による排水設備基幹整備
3-3	基幹整備(太陽光設備)	更新						校舎屋上太陽光設備更新整備
3-4	基幹整備(変電設備)	移転						電気室移転整備 (054)浴室・S43・R1
3-5	基幹整備(外構)	更新						図書館移転後の駐車場整備



07. 将来計画建物

◆ ものづくり工房棟

本校はロボカップやロボコンなど創造性を育む教育の場と考えて、多くの学生が積極的に活動して、これまでに、ロボカップ世界大会3位や高専ロボコン大賞および優勝などの優秀な成績を収めている。

しかし、大会用のフィールドでの練習は、体育館を借りて行うしかなく、非常に不便な状態である。そこで、昭和52年に整備されて、建物の老朽化が進行している流体・熱工学実験棟(252 m²)を改築して、ロボカップとロボコンの常設練習場と、エコラン、デザコン、プロコン、地域小規模発電用のスペースが入るものづくり工房棟を計画している。

また、この建物は西側の専攻科棟と東側の情報工学科棟を2階レベルで連結するため、雨天時でも校舎内の廊下や階段を使って専攻科棟へ移動することができるようになる。

予定している延べ床面積は約560 m²とし、鉄筋コンクリート造2階建てを想定している。

◆ 学寮棟

現在の職員宿舎の一部を順次廃止して、その跡地を有効活用するために老朽化した既設学寮施設の充実を図る。そのことから、今後改修計画を行っていくためにも新しく学寮棟を建設して、スムーズな既設学寮棟内のリノベーションを図るために多目的な学習支援室、多目的な交流として、他高専の教員・学生や地域の方々と交流できるスペースや短期で滞在する外国人研究者等の宿泊室、広範囲の使用が可能な施設として改修することができる。

予定している延べ床面積は、約1,030 m²とし鉄筋コンクリート造3階建てを想定している。

◆ 浴室棟

現在の男子寮生浴室は、昭和43年に整備されて寮生の増員の度に改修を行ってきた。平成25年度からは創志寮の新設による寮生の大幅な増加に伴い、水道水から井水との変更が行われたが、設備的に不足の状態であり、建物配置も不便が生じてきている。

将来は、創志寮の北側に改築整備し、予定している延べ床面積は約280 m²とし、鉄筋コンクリート造平屋建てを想定している。



◆ 図書館メディアセンター

現在の図書館は、キャンパスの東端に延べ床面積 1,611 m²で昭和 47 年に建設され、今後の老朽化と書庫不足などが生じている。また、マルチメディア情報教育センターは、延べ床面積 315 m²で昭和 48 年に建設され、電子計算機室として整備されているが現在の演習室不足と機能の陳腐化が生じていることから学生移動しやすく居心地のよいキャンパスづくりを目指すためにも新しい建物を計画する。

新設する図書館メディアセンターは、キャンパスのほぼ中央に 1 階を図書館、2 階をマルチメディア情報教育センターとして計画する。また、この建物には東側の専攻科棟と南側の福利厚生会館を 2 階レベルで連結するため、雨天時でも校舎内の廊下や階段を使って福利厚生会館や食堂へ移動することができるように計画する。

予定している延べ床面積は約 1,440 m²とし、鉄筋コンクリート造 2 階建てを想定している。また、多様な利用者のために、ユニバーサルデザインを採用する。

◆ とよたイノベーションセンター（旧図書館改修）

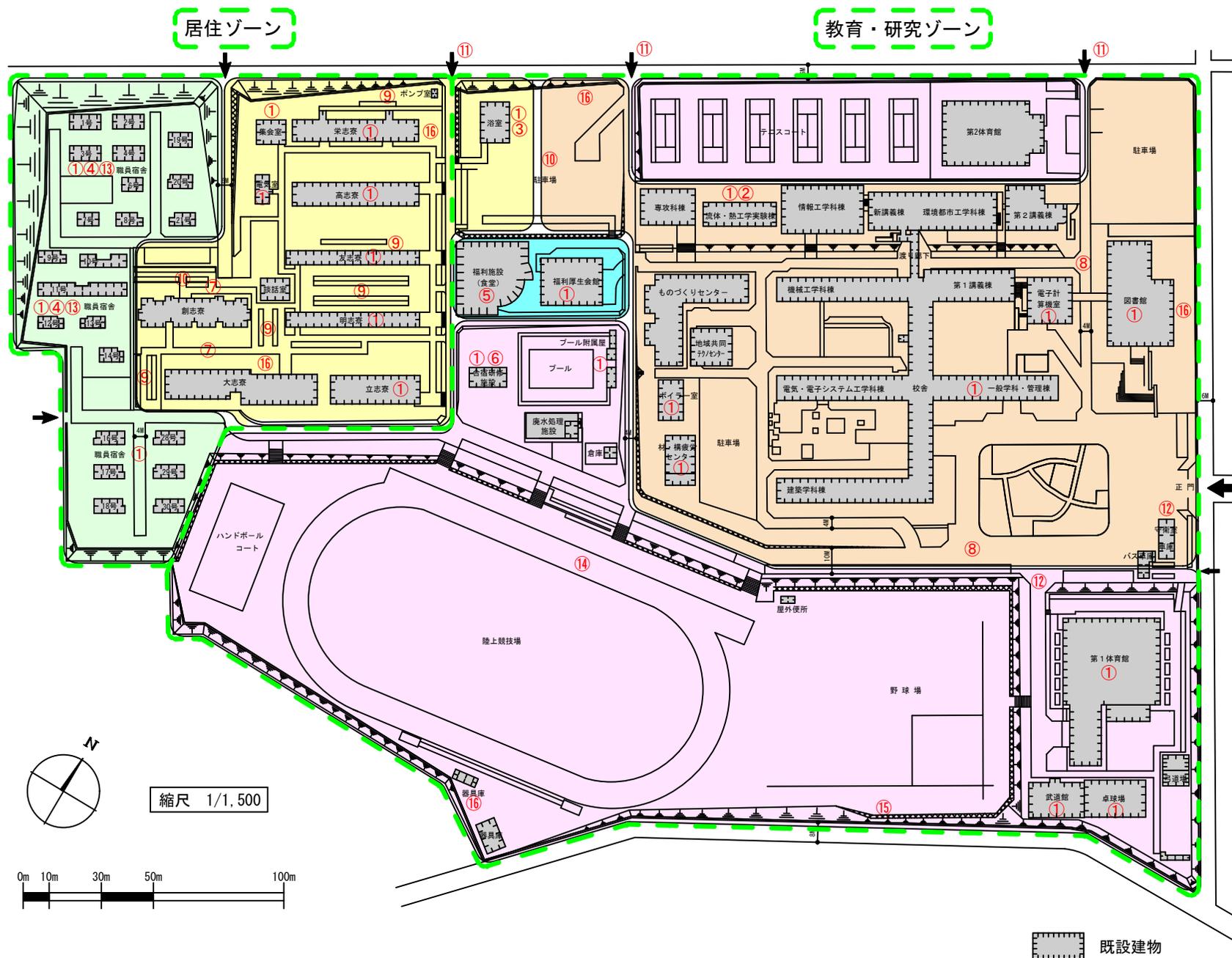
地域共同テクノセンターは、民間企業・大学・研究機関等との共同研究の推進および地域産業の振興に寄与するとともに、本校の教育・研究の充実や発展に資することを目的として、平成 14 年 10 月に設置し、平成 24 年 4 月に豊田商工会議所・豊田高専・豊田市の 3 者が協定を締結し、同年 6 月に地域共同テクノセンター内にとよたイノベーションセンターが設立され、3 者が連携して運営して、地域企業の発展のために ①ものづくり人材育成、②技術・経営相談、③新技術・新産業創出支援などの活動を積極的に行っている。

将来は、とよたイノベーションセンターを地域企業の発展のためにさらなる活動を行うために移転後の図書館を改修する計画としている。

◆ エネルギーセンター

現在の男子寮生用浴室が移転した後、現在の施設を改修して、学生寮内にある電気室と情報工学科棟にある電気機械室を移設してエネルギーセンターとする。各建物に配線される電気エネルギーの維持と管理を行う。

予定している延べ床面積は約 190 m²とし、鉄筋コンクリート造平屋建てを想定している。



建物整備

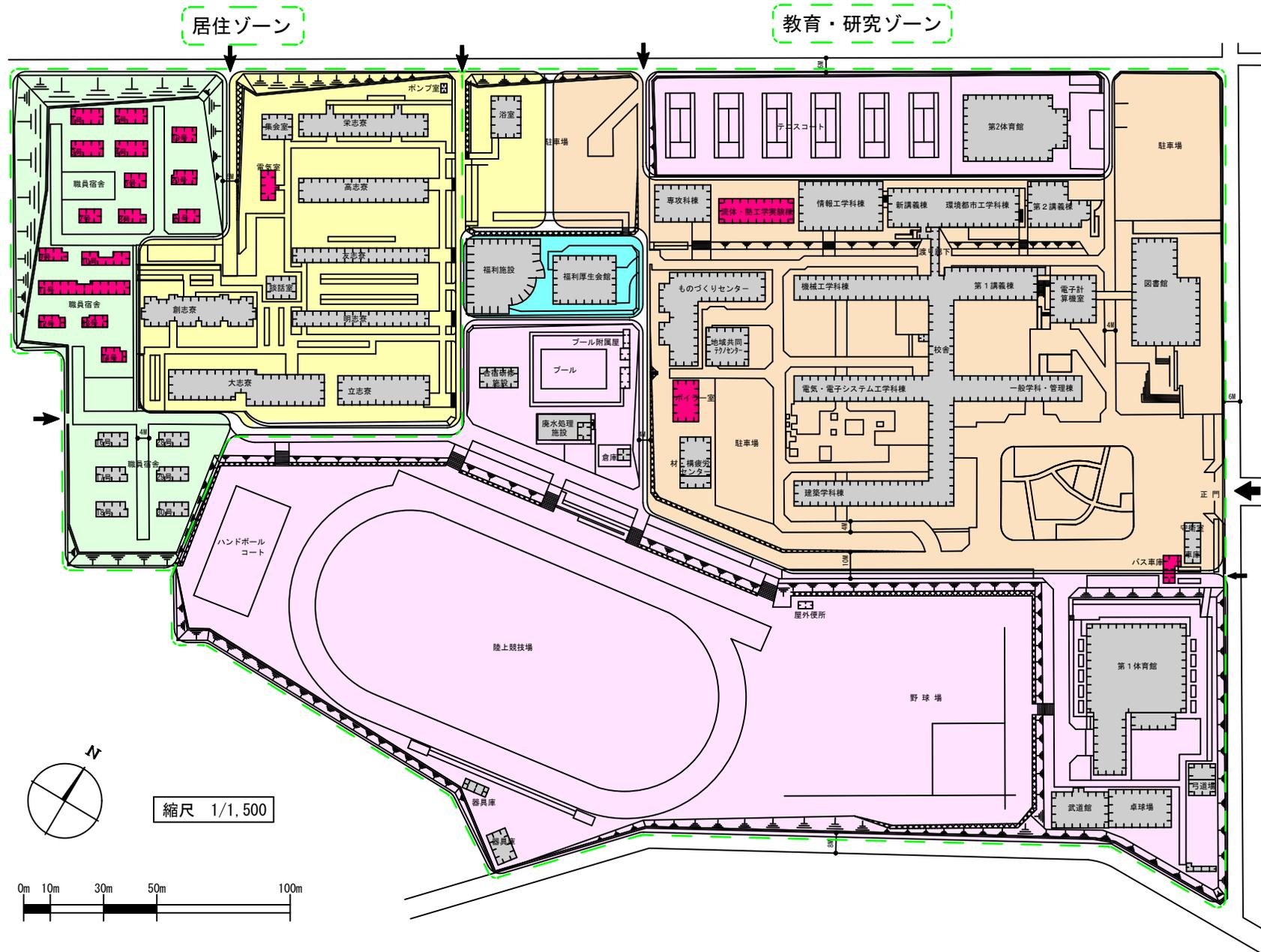
- ① 老朽化した建物
- ② 建物間の渡り動線
- ③ 男子学生寮の浴室不足
- ④ 職員宿舎の順次廃止
- ⑤ 学生の食堂待ち
- ⑥ 合宿研修施設の未整備

構内整備

- ⑦ 学生寮の渡り廊下未整備
- ⑧ 車輦と歩行者の動線交差
- ⑨ 学生寮駐輪場の分散配置
- ⑩ 臨時駐車場不足
- ⑪ 車輦出入幅が狭く見通し悪い
- ⑫ 職員・通学生用駐輪場動線
- ⑬ 職員宿舎再整備後の跡地
利用計画が必要な用地
- ⑭ 陸上競技場のトラック不良
- ⑮ 野球場の南側防球ネット越え
- ⑯ 防災用倉庫の分散配置

- 校舎・図書館エリア
- 体育施設エリア
- 福利・厚生エリア
- 学生寮エリア
- 職員宿舎エリア

既設建物

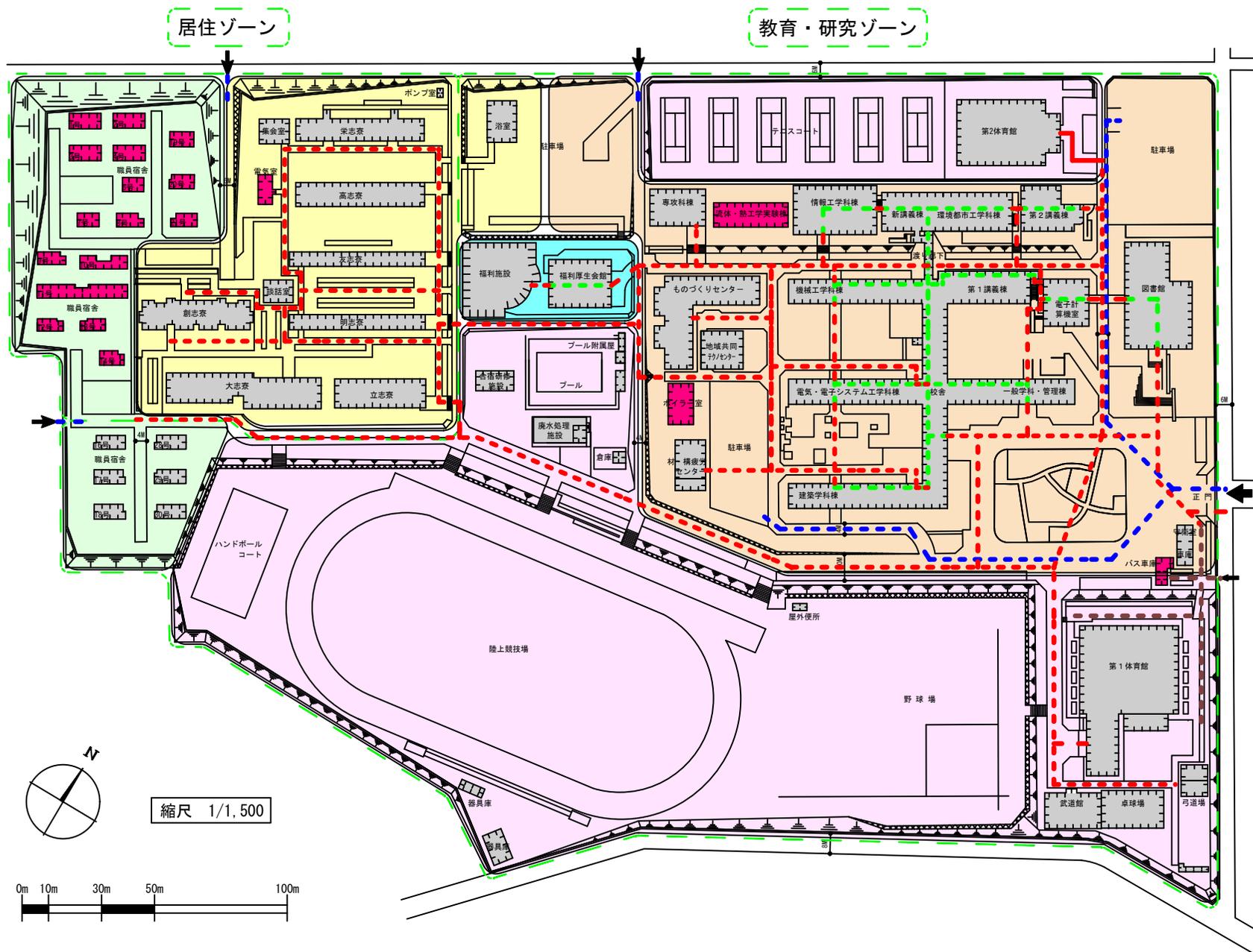


教育・研究ゾーン

- 校舎・図書館エリア
- 体育施設エリア
- 福利・厚生エリア

居住ゾーン

- 学生寮エリア
- 職員宿舎エリア
- 既設建物
- 取り壊し予定建物



教育・研究ゾーン

- 校舎・図書館エリア
- 体育施設エリア
- 福利・厚生エリア

居住ゾーン

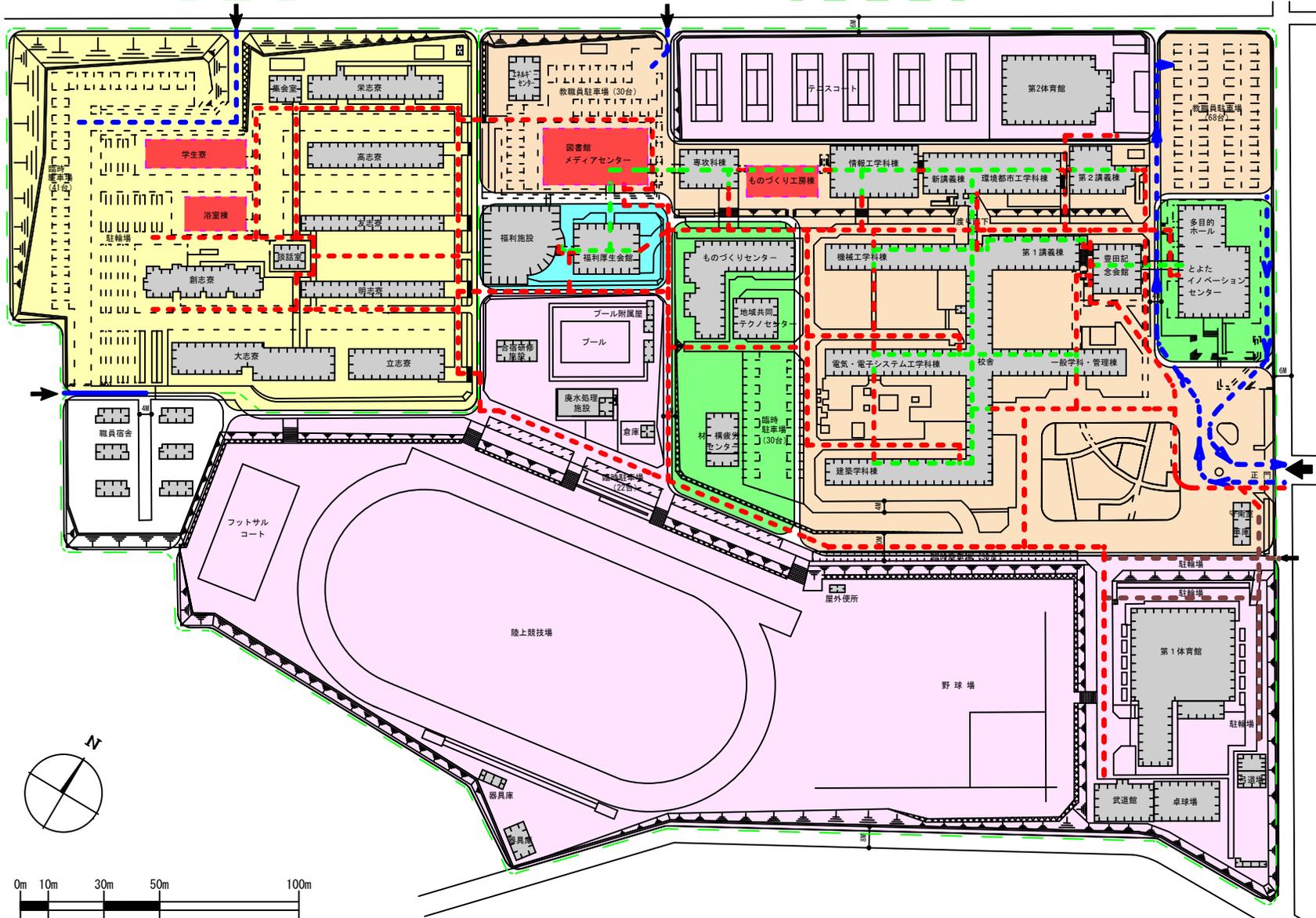
- 学生寮エリア
- 職員宿舎エリア

- 整備計画
- 既設建物
 - 将来取り壊し

- 動線計画
- 歩行者動線
(室外)
 - 歩行者動線
(室内)
 - 車輛動線
(自動車)
 - 車輛動線
(バイク・自転車)

居住ゾーン

教育・研究ゾーン



教育・研究ゾーン

- 校舎・図書館エリア
- 産学連携エリア
- 体育施設エリア
- 福利・厚生エリア

居住ゾーン

- 学生寮エリア
- 職員宿舎エリア

- (新営) 将来計画建物
- 将来屋外整備
- 既設建物
- 歩行者動線 (室外)
- 歩行者動線 (室内)
- 車輦動線 (自動車)
- 車輦動線 (バイク・自転車)

①ゾーニングと将来建物計画

国立高等専門学校固有の機能を充実強化することを、施設整備の基本方針とした長期計画に従い、豊田工業高等専門学校の立地条件・周辺環境も考慮したうえで、敷地の合理的な活用を図るため、以下のゾーン設定を行うものとする。

■教育・研究ゾーン

「高専の高度化、国際化」を目標に、地域の活発な産業界との連携、グローバルな人材育成に向けた教育・研究環境の整備を行うゾーンとする。

◆教育・研究エリア

老朽化が進行している流体・熱工学実験棟（252㎡）をロボカップやロボコンの常設練習場などが入る「ものづくり工房棟」に改築して、学生の創造性教育と世界大会に出場することでグローバルな人材教育を図る。

キャンパスの端にある図書館をマルチメディア情報教育センターとともにほぼ中央の北側に移転させ、専攻科棟と福利厚生会館を2階レベルでつなげることで東の正門から通学する学生と西側から来る寮生がともに集まりやすくし、気軽に雑誌やパソコンなどに触れられるような居心地の良い場所を提供する。

電子計算機室は、マルチメディア情報教育センターが図書館メディアセンターに移転した後は、インキュベーションセミナー室となり、建物の名称を豊田記念会館に変更する。

◆産学連携エリア

図書館移転後の建物は、とよたイノベーションセンターに改修し、地域企業の、①ものづくり人材育成、②技術・経営相談、③新技術・新産業創出支援などの活動をさらに発展させる。

◆福利・厚生エリア

福利厚生会館は、保健室を南側に配置し、学生が集まるイートインスペースに改修する。
また、図書館メディアセンターを通して、2階レベルで専攻科棟とつなげることで雨天時でも入りやすくする。

◆体育施設エリア

第1体育館は床と屋根の改修工事を行い、災害時の一時避難場所としての機能を持たせる。
陸上競技場の400mトラックの改修及び100mコースは全天候型に改修する予定である。

■居住ゾーン

豊田高専の教育研究を支える生活環境として、全人教育の場、リーダーシップを養う場、留学生との交流の場として整備を行うゾーンとする。

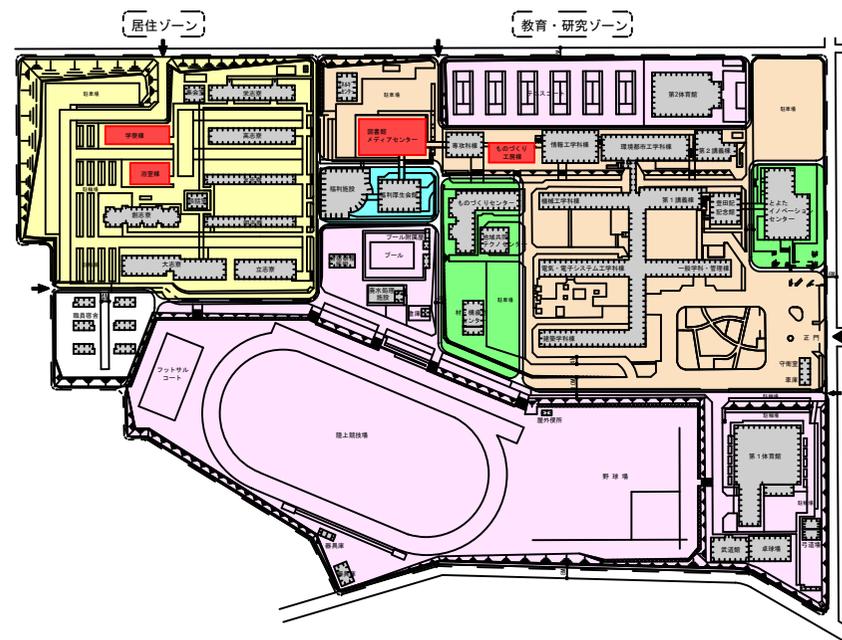
◆学生寮エリア

北側の職員宿舎跡地は、学生寮エリアに転用して、新しい学生寮棟を建て、既設学寮棟内に多目的な学習支援室などを設置して学生充実改善を図る。

男子浴室は、現在の学寮施設規模に適した設備機能とするために浴室棟を改築していく。
学生寮施設の駐輪場は集約化していく。

◆職員宿舎エリア

老朽化している職員宿舎は中央、北側、南側の順に廃止していく。
職員宿舎は、北側に集約して建物を建て替えて、隣接する学校及び学寮施設の災害や事件、事故等を含めた迅速な対応を行うため緊急参集要員である教職員を確保する。



②建物施設配置及び動線計画

正門のすぐ北側にある図書館をキャンパスの中央に移転させて、既設建物はとよたイノベーションセンターに改修する。それによって、第1駐車場の一般車両は一方向通行とする。

中央に移転した図書館メディアセンターは、東側の専攻科棟と南側の福利厚生会館と2階レベルでつながれ、雨天時でも校舎内の通路を使って、食堂や福利厚生会館までの移動ができるようになる。

流体・熱工学実験棟を増改築して、ものづくり工房棟を設けることで、西側の専攻科棟と東側の情報工学科棟を2階レベルでつながり、雨天時でも校舎内の通路を使って快適に移動できるようにする。

③環境・インフラストラクチャー計画

キャンパス内の通風や日照、自然環境特性を活用したサステナブルな環境を保つために校内の樹木や植栽はできるだけ維持していく。

電気の効果的・効率的な維持管理と運営を行うために、将来は供給・処理施設としてエネルギーセンターを設置する。また、旧蒸気用配管を撤去し、電気・ガス・給水のエネルギー幹線ルートを見直し、維持保全の省力化が図れる計画を立て柔軟性を持たせて実施していく。

